

1999年3月20日発行

Vol.9

# 第1回MIDI検定試験実施

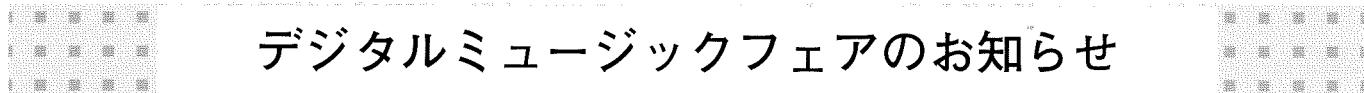


「MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 規格」を理解し活用できる人材育成を目的として、「第1回MIDI検定試験（3級）」を「平成11年1月17日（日）午後1時30分より（90分）」、全国（東京、大阪、名古屋、仙台、浜松）24会場にて実施致しました。受験応募者は約3,000名（正確には2,966名）にのぼり、改めてMIDI関連、デジタルミュージック関連の音楽制作に興味と関心をもつ若者の多い事（問合せ件数：受験案内請求は6000名強）が実証されました。

合格者は2,413名（合格率81.3%）、満点合格者が128名、2月10日AMEIホームページ上にて、又協力校会場にて合格者受験番号を発表し、「3級合格証－MIDI LICENSE－」カードを合格者全員に郵送致しました。（詳細は4P）

## CONTENTS

デジタルミュージックフェアのお知らせ	2・3	GMLシステム・レベル2主な仕様	8
MIDI検定結果報告	4	SMF with Lyrics	9
NMRCのJASRACとの暫定合意（含むAMEI）	5	委員長インタビュー（業務委員長・MIDI規格委員長）	10・11
NAMMビジネスツアー報告	6・7	AMEI会員名簿	12



# デジタルミュージックフェアのお知らせ

## 【出展のご案内】

1996年10月に第1回を開催したMIDI WORLDは、皆様のご協力をもちまして順調に回を重ね、1998年までに3回を数えるまでになりました。その間、「MIDI規格を中心としたデジタル楽器・機器の展示会」として、ご出展社をはじめとするご関係の皆様、そしてご来場の方々からも年に一回の欠かせないイベントとして認知されるに至りました。

しかしデジタルミュージックの世界を振り返ってみると、数年前に比べて急激に進化していることに驚かされます。パソコンの劇的な性能向上とインターネットの普及、またハードディスクレコーダーをはじめとする新しいデジタルサウンド機器の登場によって、デジタルミュージックは多様な表現手法と能力を持ちはじめています。それゆえデジタル音楽を「MIDI」の一言でまとめるのは難しくなってきており、出展社の皆様からも「MIDIだけではなくもっと幅広くデジタル音楽関連機器を紹介したい」との声も多く伺いました。

このため今年から、展示会コンセプトを広義の「デジタルミュージック」とし、展示会タイトルを「デジタルミュージックフェア～MIDI WORLD '99～」といたします。デジタルサウンド機器・デジタル楽器を中心とする幅広い出展分野を対象とし、ご来場者により多彩で豊かなサウンドを作り出す制作環境を提案していきます。

また、パソコンの様々な利用法を紹介する体験型イベント「家族ではじめるパーソナル・マルチメディア ばそまる '99」(主催：日本経済新聞社)を昨年に引き続き同時開催いたします。活用事例をやさしく丁寧に紹介する手法は、ご関係の方々からも「コンシューマーの視点で考えられた素晴らしい企画」と高い評価をいただいております。「デジタルミュージックフェア」と「ばそまる '99」の連動によって、広報・動員とも「デジタルミュージックフェア」により大きなシナジー効果をもたらすものと考えます。

つきましては、ご検討の上、何卒ご出展賜りますようお願い申し上げます。

## 【開催概要】

名 称	デジタルミュージックフェア
サブタイトル	MIDI WORLD '99
会 期	1999年7月30日(金)～8月1日(土) 10:00～17:00
会 場	東京国際展示場 東京ビッグサイト 西ホール
主 催	社団法人 音楽電子事業協会、日本経済新聞社
後 援	通商産業省、文化庁(予定)
協 力	日本楽器フェア協会、日経BP社、日経ホーム出版社、テレビ東京、関連専門雑誌など(予定)
協 賛	コンピューター／音楽関連団体(予定)
出展対象	電子楽器(シンセサイザー、電子ピアノ、キーボード、サイレント楽器関連、その他)／ デジタルサウンド機器(シーケンサー、サンプラー、ミキサー、CDプレーヤー、その他)／ デジタルレコーディング機器(ハードディスクレコーダー、MDレコーダー、CD-R、その他)／ ソフトウェア(シーケンスソフト、サウンド素材集)／パソコンおよび周辺機器／ 音楽関連の専門学校・スクールなど／通信カラオケ／ネットワークによるデータ配信サービス／ データアーカイブ／パソコン通信・インターネットプロバイダ／音楽関連情報／出版など
展示規模	40社 135小間(予定)
来場対象	音楽・電子音楽を趣味とする一般／作・編曲・演奏を趣味とする一般／パソコンを趣味とする一般／ ミュージシャンをはじめとする音楽業界関係者および楽器業界関係者
同時開催	家族ではじめるパーソナル・マルチメディア「ばそまる '99」(主催：日本経済新聞社)
来場者数	100,000人(予定) ※同時開催イベントと共に
入場料	500円(予定／消費税込み) ※同時開催イベントと共に、中学生以下は無料



## 【開催のポイント】

### 1. コアターゲットが注目する、デジタルミュージックに関する楽器・機器の総合展示会へ

MIDIを始めとする、デジタルミュージックに関するあらゆる楽器・機器を網羅する総合展示会を目指します。デジタル楽器やシーケンサー、サンプラーなどの機器、DTMシステムのほかに、今が旬のデジタルレコーディング関連機器、パフォーマンスとしてのDJ関連機器など、デジタル音楽制作・演奏に欠かせない機器の出展を募りながら、初級レベルからプロフェッショナルの世界までを見据えて展示を行います。また、デジタルミュージック専門媒体に協力を仰ぎ、重点的に開催告知活動を行うことによって、ハイエンドユーザーを確実に展示会へ誘導します。

### 2. 初心者ユーザーも取り込むチャンス

パソコン初心者は趣味の分野でのパソコン利用を考えています。「デジタルミュージックフェア」では、ハイエンドユーザーをコアターゲットに開催告知活動を続けるとともに、パソコン初心者向けの企画を実施し、新しいユーザー層を取り込んでいきます。それにより、「デジタルミュージックフェア」への来場者増だけでなく、電子楽器、デジタル音楽市場全般の拡大をめざします。

### 3. 魅力あるオンラインイベント「Virtual MIDI WORLD」の拡充

インターネット利用率は急速に上昇しています。個人がパソコン利用の目的として「インターネットの利用」は上位に挙げられています。特にMIDIユーザーなどPCユーザー層に向けて、インターネットでの情報提供は欠かせません。今回「デジタルミュージックフェア」の開催に際し独自のホームページを開設、オンラインイベントを開催します。「デジタルミュージックフェア」の開催告知に努めるとともに、インターネットならではのデジタルミュージック関連企業情報をユーザーに提供していきます。期間は6月1日(火)～8月31日(火)ですので、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

### 4. イベントステージ、セミナーの充実

セミナーは、西ホール中二階3室を用意し、協会主催のセミナーやパネルディスカッションの開催を予定しています。また、「デジタルミュージックフェア」と「ばそまる'99」の共通ステージを西展示場アトリウム内に設けますので、トークショーやコンテスト発表会、ミニライブなどにご利用ください。

## 【広報・宣伝計画】

- ・コアユーザーを対象にした専門雑誌にフォーカスを当て、集中的に広報・宣伝活動を行います。
- ・MIDI WORLD '98来場者にダイレクトメールを送付します。
- ・専門学校、首都圏の大学・高校、楽器店、CDショップなどへポスターの掲示やチラシ、招待券の配布を依頼します。
- ・インターネット上にオンラインイベントを立ち上げ、展示会の事前告知や関連情報の発信を行います。
- ・MIDIやデジタル関連機器を対象とするメーリングリストや、パソコン通信などでの関連フォーラムでの告知を依頼します。
- ・MIDIを中心とするデジタルミュージック関連のホームページ主催者に、イベント告知と「Virtual MIDI WORLD」へのリンクを依頼していきます。
- ・注目率の高い検索エンジンなどへ、展示会のバナー広告を出稿します。
- ・随時ニュースリリースを作成し、新鮮な情報を各メディアに提供します。
- ・イベント情報誌、ミニコミ誌へ告知記事の掲載を依頼するほか、特集記事の掲載を依頼します。
- ・同時開催イベント「家族ではじめるパーソナル・マルチメディアばそまる'99」と連携し、相互に同時開催イベントとして告知していきます。
- ・日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞に開催社告および関連記事の掲載を進め、日経グループの関連媒体へも記事掲載を依頼します。

## = MIDIを理解し活用できる人材育成のための認定制度 =

社団法人音楽電子事業協会・MIDI認定制度

「MIDI検定試験」実施結果について

-コンピュータミュージックの共通ライセンス-

### ■ 「第1回MIDI検定試験3級」実施結果

名 称：平成10年度「第1回MIDI検定」試験（3級）

主 催：社団法人音楽電子事業協会

協力企業：音楽電子事業協会 会員各社

協力団体：日本シンセサイザー・プログラマー協会

（会長：富田 熱）

実 施 日：平成11年1月17日午後1時30分より（90分間）

協力校＆試験会場（24会場）

（東京・15会場）

アイデックスミュージックアカデミー

デジタルメディアスクール シリコンハリウッド学園

TCA東京コミュニケーションアート専門学校

東京工業専門学校

東京ミュージック＆メディアアーツ尚美

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

日本電子専門学校

パンスクールオブミュージック

総合学園・ヒューマンアカデミー

ミュージック・カレッジ・メザーハウス

ヤマハ音楽院

ヤマハミュージック渋谷店

代々木アニメーション学院

社団法人音楽電子事業協会事務所



（大阪・3会場）

キャットミュージックカレッジ専門学校

ディップス／コンピューターミュージッククラブDEE

職業訓練法人 大阪ヒューマンアカデミー

（名古屋・2会場）

名古屋音楽大学

名古屋自由学院短期大学

（仙台・2会場）

菅原学園・専門学校デジタルアーツ仙台

東北電子計算機専門学校

（浜松・2会場）

（株）河合楽器製作所

ヤマハ（株）

#### 試験実施概要：

1) 受験料 3級 2,500円（消費税含み）

2) 試験方法 筆記試験（所用時間1時間30分）

3) 合格基準 100点満点のうち70点以上（問題数100問）

4) 結果通知 ・平成11年2月10日、AMEIホームページにて、協力校会場にて発表

・合格者には「3級合格証（MIDI LICENSE）カード」（上に写真例）が贈られた。

#### 試験内容：（初年度・今年度は3級のみ実施）

<3級> MIDI規格1.0に準拠 スタンダードMIDIファイル実用レベル

(1)「MIDIの基礎」

楽情報の伝達、バイトとビット、MIDIケーブルの接続

(2)「MIDIメッセージ」

MIDIチャンネル、ステータスとデータ、メッセージの種類

(3)「ノートデータ」

ノートオンオフ、ペロシティ、ゲートタイム、タイミング

(4)「コントロール」

音色の切り替え、ピッチベンド、コントロールチェンジ

(5)「システムメッセージ」

システム&メーカー・エクスクルーシブ

(6)「MIDIの知識」

MIDIの歴史、アナログシンセの基礎、GM&SMF

#### MIDI検定試験・3級受験実績

(1) 受験申込者数 2,966名

(2) 合格者数 2,413名

### ■ 「第2回MIDI検定試験3級」実施予定

#### 第2回・MIDI検定試験 実施予定

日 時：平成12年1月23日（日）

場 所：11年実施協力校に加えて

札幌・福岡・広島地区協力校

#### MIDI検定3級公式ガイドブック：

AMEI制作・監修 日本シンセサイザープログラマー協会著作・編集「MIDI検定3級公式ガイドブック」として既出版。（平成10年11月発刊）

#### 第2回平成11年度（12年1月23日予定）MIDI検定の告知：

平成11年10月より協力校（コンピュータミュージック専門学校他）・主要楽器店・及びAMEI会員会社にてポスター・チラシ・等にて、主要コンピュータ誌・音楽雑誌の誌上にて、AMEIホームページ上にて

（<http://www.amei.or.jp/>）、受験要領・内容等を告知。

## JASRACとNMRC

### ネットワーク上での有料の音楽利用に関する著作物使用料について暫定合意

社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）とネットワーク音楽著作権連絡協議会（NMRC）は1998年11月26日、協議中であったネットワーク上で利用される音楽に関し、そのうちの有料のものに対する著作物使用料について、1999年3月31日までに期間を限定し暫定合意しました。

暫定合意した概要は下記の通りです。

JASRACとNMRCは、1997年9月25日、各参加団体の所轄官庁である文化庁、通商産業省、郵政省、並びに社団法人日本芸能実演家団体協議会をオブザーバーに迎え、ネットワーク上での音楽利用に関し、どのような考え方で使用料を定めるのが適当か、権利者と利用者双方が共通の認識をもつことができるよう勉強会を開始しました。

JASRACは1997年12月2日、その成果をふまえ「インターネットタイプ配信にかかる使用料（案）」をNMRCに提示、NMRCは1998年3月12日、これに対する回答「インターネットタイプ配信にかかる音楽著作物の許諾ルールに関する要望書」をJASRACへ提示、以降両者合意に向けて協議を続けてきました。

JASRACとのNMRCの主張の主な相違点は、JASRACが、音楽を利用可能な状態に用意することへの評価としての「基本使用料」と、アクセス回数に応じた、事業者の情報料収入をベースとした「利用単位利用料」の合算額を月額使用料としたのに対し、NMRCは、収入にリンクした使用料が原則、また月額での「基本使用料」は不合理、としている点で、合意点を探り協議を継続してきました。しかしながら、双方十分な合意点に達するにはなお時間を必要とするため、当面のネットワーク上での音楽利用可能な環境を整えることが急務との判断から、有料のもの、また期間を1999年3月31日までに限定して暫定合意することとしました。

(別紙)

#### <1> ダウンロード形式

月額利用単位使用料は、以下のいずれか契約時に選択し、算出した額とする。

1. 1曲リクエスト1回当たりの情報料の7%に月間の総リクエスト回数を乗じた額、又は1曲7円に月間の総リクエスト回数を乗じた額のいずれか多い額
2. 広告料収入がある場合、月間の総情報料収入と月間の正味広告料収入を合算したものに6.75%を乗じた額、又は1曲7円に月額の総リクエスト回数を乗じた額のいずれか多い額  
利用可能期間が受信後10日以内、又は利用可能回数が10回までのものは「7円」を「3.5円」とする。

#### <2> ストリーム形式

月額利用単位使用料は、1回のリクエストに応じて公衆送信されるデータが、

1. 主として音楽著作物のとき  
月間の総情報料収入と正味広告料収入を合算したものに3.5%を乗じた額
2. 一般娯楽等のとき  
月間の総情報料収入と正味広告料収入を合算したものに2.5%を乗じた額
3. スポーツ、ニュース等（音楽著作物が余り含まれないもの）のとき  
月間の総情報料収入と正味広告料収入を合算したもの1%を乗じた額

#### <3> ダウンロード形式の場合は、その10%の額を月額基本使用料相当額として加算する。

ストリーム形式の場合は、その額に月額基本使用料相当額を含むものとする。

#### <4> ダウンロード形式、ストリーム形式の場合も月額の支払い額が5,000円を下回る場合は、5,000円とする。又、インターネットタイプ配信を行う期間が1ヶ月に満たない場合は、1日当たり1,000円とし、月額の上限を5,000円とする。

#### <5> 映画（著作物のプロモーションを含まない。）、ゲーム等、他の作品の構成部分として著作物を利用する場合は、別途協議するものとする。

尚、無料の場合の個人利用と商業サイト利用について、及びストリーム形式のカラオケサービス使用については継続協議とする。

本暫定合意書締結日以降も、1999年4月1日以降の使用料等について、1997年12月2日JASRAC提示案、1998年3月12日NMRC提示案をもとに継続協議する。

#### ●ネットワーク音楽著作権連絡協議会（Network Music Rights Conference 略称：NMRC）

代表世話人 佐々木隆一（社団法人音楽電子事業協会）

副代表世話人 塚本慶一郎（社団法人マルチメディア・タイトル制作者連）

高橋 徹（日本インターネット協会）

宮坂修史（電子ネットワーク協護会）

参加団体 社団法人音楽電子事業協会

社団法人マルチメディア・タイトル制作者連盟

社団法人日本レコード協会

社団法人テレコムサービス協会

電子ネットワーク協議会

日本インターネット協会

日本地域プロバイダー協会

社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会

# NAMMビジネスツアー

今年で3回目を迎えたMIDI規格委員会主催による、NAMM ビジネスツアーには17名の方々が応募され、1月27日から2月2日まで、米国NAMM Winter Marketの視察、MIDI規格の協議制定を行っているMMA（MIDI Manufacturers Association）総会への参加、AMEI/MMA双方提案の検討及び次世代のMIDIに関する討議をおこなうためのMeetingの開催、特にAMEI提案のGM2,SMF with Lyricsがロゴを含めMMA総会にて承認されるなど意義深いツアーであった。

## 1. NAMM Winter Marketについて

1月28日より1月31日まで、ロサンゼルス・コンベンションセンター（会場面積43,200m<sup>2</sup>）で「1999 NAMM International Music Market」が盛大に開催された。開催期間中は、天候にも恵まれ、NAMM当局の発表では、前年出展社よりも9社増の1,202社、また入場者数は、

若干減少（昨年比-1,753人）したものの61,407人を記録した。来年度のNAMMショーはロサンゼルスでの開催が決定しているが、2001年以降、拡張改修工事された、従来のアナハイムコンベンションセンターに戻ることに決定した。

## 2. MMAとのMeetingについて

### ● Unofficial Meeting

1月28日（木）15時から、ダウンタウンにあるオムニホテルにてIEEE1394への双方の取組み確認、この分野でのAMEI / MMA協調について確認を行った。

1月30日（土）13時からオムニホテルにてAMEI MPWG、MMA TLWG計8名が出席してMeetingを開催した。

まず、昨日のMeeting結果を再確認した後、TLWG / MPWGの背景及び近況、今回TLWGから提案されたItem#155 ( MIDI Over Alternate Media Transports) に関する事項などが話し合われた。結果、AMEI MPWGとMMA TLWGは今後もっと近寄った形で協同していくこと、その為にメールによるやり取り以外に年3-4回の顔合わせたMeetingを持つこと、次回は5月に開催することが決定した。

### ● Official Meeting

1月30日（土）Unofficial Meetingに引き続き16時から同ホテルにてOfficial Meetingを開催した。

出席者はMMAから Tom White, James Grunke, Athan Billias, Rick Choen, Keiko Ikeda, AMEIから亀山征二、鬼島昭一、藤森潤一、本庄義治、山内和豊、相馬大三郎、佐藤康朗、神川信郎、中島安貴彦、飛河和生、池内順一、高橋健の17名であった。

まずMMA Tom White会長及び亀山MIDI規格委員会委員長より挨拶、出席者自己紹介のあと、1998年度両協会の以下の事業報告があった。

[AMEI]

MIDI World '98、MIDI検定3級試験、MIDIのJIS化

[MMA]

DLS-2 / MPEG4、MIDI Task Force、Watermarking

続いて、明日開催予定のMMA総会で審議される案件に

について話し合った。

その結果、AMEI提案のGM2 / SMF / SMF Lyricsのロゴについても追加審議することとなり、予定されていたItem#155( MIDI Over Alternate Media Transports) については審議取り止め今後も検討を加えていくこととし、明日の総会にはAMEI提案のSMF with Lyrics, GM2及びその関連提案を含めた15件が審議されることとなった。最後に今後の課題について意見交換が行われ、AMEIの1394Trade Associationへの参加希望、DLS2テストサイト、MIDI2.0などについて熱心に話し合われた。



### 3. MMAの総会について

1月31日（日）7時30分のBreakfastから、オムニホテルにてMMA総会が開催された。出席者はMMAメンバー約40名とAMEIからのオブザーバー出席者であった。総会は、ゼネラルセッション、クローズドセッション、アフタヌーンセッションの3つに分かれ、夜8時近くまで開催された。

● Full Breakfastの後、会員以外の参加も可能なゼネラルセッションがExecutive BoardメンバーChairmanのJames Grunkeの司会で9時より開催され、Tom White会長によりMMA及びAMEIの活動について報告があった。

● 10時より会員のみ参加可能なクローズドセッションが開催され、最初にExecutive Board Member及びTech. Board Memberの選出が行われ次の各氏が選出された。

[ Executive Board Member ]

James Grunke, David Oren, Athan Billias, Bob Starr

[ Tech. Board Member ]

Bob Lee, Rick Cohen, Jim Wright, Joe Bryan, Bennett Sikes, David Van Brink, Dave Sparks

続いてBob Lee氏により下記の事項についてボーティングが進められた。

- Item #123 General MIDI Level 2  
AMEIから指摘の一部を修正することで承認された。
- Item #146 Scale/Octave <GM2>  
反対意見もなく承認された。
- Item #147 Defaults for Sound Controllers <GM2>  
反対意見もなく承認された。
- Item #148 Controller Destination Setting <GM2>  
一部変更点を含めた形で承認された。
- Item #149 Key-Based Instrument Controllers <GM2>  
反対意見もなく承認された。
- Item #150 Global Parameter Control <GM2>  
AMEIから指摘の一部を含め修正することで承認された。
- Item #151 Master Fine/Coarse Tuning <GM2>  
反対意見もなく承認された。
- Item #152 Modulation Depth Range <GM2>  
反対意見もなく承認された。
- Item #153 Redefinition of CC91 and CC93 <GM2>  
反対意見もなく承認された。
- Item #140 Downloadable Sounds Level 2  
正誤表が配布され、説明あった。これらの変更を含めた上で、反対意見なく可決された。
- Item #92 New MIDI Implementation Chart  
一部変更点を含めた形で承認された。

● 誰でも参加可能なアフタヌーンセッションが13時30分から開催され、約40名の参加者のもと、AMEIからの1394/USBプレゼンテーション及びデモンストレーションを開催した。まず、児島MPWGリーダーからMPWGの活動内容、1394/USBの概要などの説明があり、その後USBおよび1394を応用したworking prototypeのデモがあり、MMAに対しても、MPWGの活動についてアピールし、MMA内の関連グループへの協調を働きかけた。

デモの内容は次の通り。

#### デモ1. Audio & Midi on USB

TEACのMTRとディジタルミキサーに、RolandのUSBボードを組み込み、USBによるミキサーの制御と、ソフトシンセからの音声をUSB経由でミキサーに送ってミックスダウンするデモ。

#### デモ2. Multiple MIDI Cable on IEEE1394

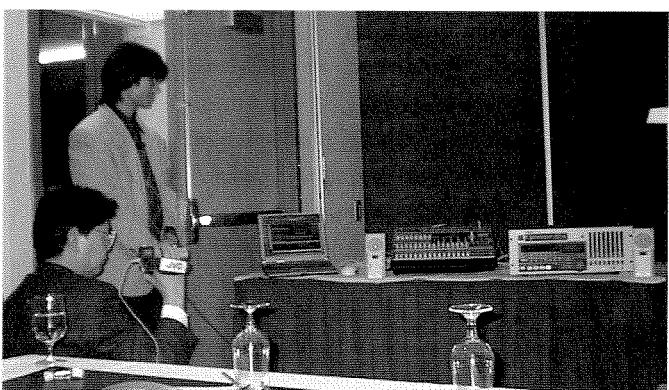
Yamahaの1394ボードにマイコンボードを取り付け 8系統の独立したMIDIケーブルを1本のIEEE1394ケーブルに多重化して伝送するデモ。

#### デモ3. Audio & MIDI on IEEE1394

Midi World 98のデモシステムにTEACのDA98を加え、オーディオデータとMIDIデータをIEEE1394で伝送するデモ。複数の音源、エフェクトが同期演奏する様子と、MMCコマンドによる自動レコーディングのデモも行った。

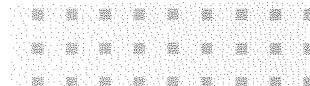
#### デモ4. Music Instrument and AV device on IEEE1394

MIDIコマンドでDV-camのプレイ、ストップをリモートコントロールするデモ。AV機器との連動という新しいテーマに取り組んだ。





## GMシステム・レベル2主な仕様 (詳細についてはGMシステムレベル2仕様書を確認のこと)



- 音源方式 限定しない。(各社それぞれの方式)
- 同時発音数 任意の音色の組み合わせにおいてトータル32ノート以上の同時発音数を持つこと。

### ●MIDIチャンネル

- ・すべてのMIDIチャンネル(1~16チャンネル)に対応した音源であること。
- ・すべてのMIDIチャンネルの初期モードは、モード3とする。
- ・メロディ・チャンネルでは、モード4(M=1のみ)に対応すること。
- ・各チャンネルで個別音色の演奏ができ、それぞれチャンネル・ボイス・メッセージ(ノート・オン/オフ、コントロール・チェンジ、RPN、チャンネル・プレッシャー、プログラム・チェンジ、ピッチ・ベンド)及びチャンネル・モード・メッセージを受信して、個別のコントロールができるこ

### ●リズム・チャンネル

- ・10チャンネル及び11チャンネルは、リズム・チャンネルとして使用できること。
- ・10チャンネルの初期設定はリズム・チャンネルとし、11チャンネルの初期設定はメロディ・チャンネルとする。

### ●音色

- ・GML2サウンド・セット及びパーカッション・マップに記載されたすべての音色を内蔵すること。
- ・音色名のディスプレイ表示は、GML2サウンド・セットの記載と異なってもよい。また、異なったプログラム・チェンジに対応して同じ音色を使用してもよい。例えば、基本音色の“41:Violin”と“42:Viola”が同じ音色でもよい。
- ・GML2のバンク“79 00”(16進数)は、GML1サウンド・セットと同じにすること。
- ・GML2のリズム・チャンネルにおけるプログラム1のノート番号35~81は、GML1のパーカッション・マップと同じにすること。
- ・GML2のバンク“78 xx”および“79 xx”(16進数)のプログラムのうち、GML2サウンド・セットで定義されていないプログラム番号は、将来の拡張のために予約されている。

### ●発音ピッチ

メロディ・チャンネル(調律楽器)の音色

#### <音階楽器音>

- ・音律の初期設定は平均律とする。
- ・中央Cをノート番号60(3CH)とする。
- ・ノート番号69で440Hzのピッチで発音すること。  
(ファイン&コース・チューン及びピッチ・ベンドがセンターの時)
- ・GML2サウンド・セットに示すキー・レンジの±1オクターブ以上の範囲で正しいピッチで発音すること。
- ・このキー・レンジの範囲内の全鍵で、±1オクターブのピッチ・ベンドが正しく動作すること。また、GML2サウンド・セットに記載されたキー・レンジに関わらず、ノート番号36~96の範囲では正しいピッチで発音すること。

- ・GML2サウンド・セットに示すキー・レンジの範囲内では、それぞれの音色名の楽器らしい音質で鳴ること。

#### <効果音>

- ・音程や音律は任意である。
- ・ノート番号60~72で適正な音色/音高でなければならない。

#### リズム・チャンネル

各鍵に所定のリズム音色をそれぞれ割り当てる。

### ●ボイス・アサイン

- ・新たなノート・オンを受信した時に空きボイスがあれば、チャンネルに関わらずそのボイスにアサインする。
- ・音源のすべてのボイスが発音中の時に新たなノート・オンを受信した場合や、同一鍵連打や同一鍵の多重オンの場合、ボイス・アサイナーの動作は各社が最善と考える方法をとってよい。

#### リズム・チャンネル

- ・ORCHESTRAセット(ノート番号88)及びSFXセット(ノート番号47~84は、ノート・オフによる消音処理を行なう。それ以外のリズム音色では消音処理を行なわない。
- ・スタンダード・セットの3つのハイハット音(ノート番号: 4 2/4 4/4 6)は、オルタネート・アサインが必要。例えば、ノート番号46が発音中に、ノート番号42のノート・オンを受信したら、発音中のノート番号46のボイスを急速減衰させ、ノート番号42のボイスを発音させる。
- ・次の音色の組み合わせも、ハイハットと同様、オルタネート・アサインを行なうのが望ましい。

#### <スタンダード・セット>

ショート・ホイッスル (71) / ロング・ホイッスル (72)  
ショート・ギロ (73) / ロング・ギロ (74) ミュート・クイーカー (78) / オープン・クイーカー (79)  
ミュート・トライアングル (80) / オープン・トライアングル (81)  
スクランチ・プッシュ (29) / プル (30)  
ミュート・スルドー (86) / オープン・スルドー (87)

#### <アナログ・セット>

アナログCHH(42) / アナログCHH(44) / アナログOHH(46)

#### <SFXセット>

スクランチ・プッシュ (41) / スクランチ・プル (42)

### ●エフェクター

- ・チャンネルごとにセンド・レベルを設定できるコラスとリバーブを各1基搭載すること。
- ・コラス→リバーブの接続を用意すること。

**GENERAL  
MIDI2**

MMAでの総会でも承認されたGM2ロゴ

# SMF with Lyrics



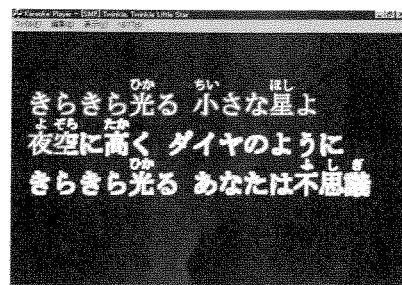
MMA総会で承認されたSMF Lyricsロゴ

## ■ SMF with Lyricsとは？

MIDIデータファイルの業界共通フォーマットであるSMF（Standard MIDI File）のLyric Meta EventをLyric/Display Meta Eventとして拡張したものです。マルチリンガルで使用できるようになり、表示を目的とした曲名等の曲情報を加え、歌詞、曲情報にルビ（読み仮名）を振ることもできるので、楽譜やカラオケの表現力が高まり、より付加価値の高いSMFの作成が可能になります。

## ■ 特徴

- ・ 楽譜、カラオケの歌詞表示ができます。
- ・ 英語圏の言語だけでなく、日本語が使用できます。
- ・ 曲名、作曲者名、作詞者名、アーティスト名などカラオケ表示に有益な曲情報を扱えます。
- ・ 歌詞、曲情報にルビ（読み仮名）を振ることができます。
- ・ ベースはSMF（業界共通フォーマット）ですから、汎用性、互換性に優れています。



## ■ 概要

SMF with Lyricsはカラオケの歌詞や楽譜上への歌詞表記など、MIDIに同期した文字表現を可能にするフォーマットです。

歌詞は、楽曲を構成する上で楽器演奏と同様に非常に重要な情報です。しかし、従来のSMFではLyric Meta Eventに関する運用方法が主に英語圏を想定したもので、日本語等多バイトの文字コード言語の規定がなかったり、歌詞の表記に関する厳密な規定がない等、カラオケ再生や歌詞付き譜面表示において、異なるアプリケーション間でのデータ互換性を確保することが困難でした。

AMEI SMF with Lyrics Working Groupではユーザ間の利便性を図るため、歌詞及び曲情報の扱いに関する詳細なフォーマットを規定し、SMF規格に追加します。

## ■ 内容

- ・ 現在のSMF（バージョン1.0）では、歌詞に関する情報はLyric Meta Eventを用いて記述するように定められていますが、このLyric Meta EventをLyric/Display Meta Eventとして拡張します。  
' [ ' ]' を使用して、ルビ（よみがな）の表示ができるようにします。  
例： 今夜[こんや]
- ・ 文字コード情報タグで、マルチリンガルに対応します。言語切り替えがほぼ自由にできるよう考慮しています。  
例：  
{@JP} → 日本語 (Shift-JIS)  
{@LATIN} → 英語 (ANSI)
- ・ 曲情報タグで、曲タイトル、アーティスト名などを表示の為の情報として記述できるようにします。  
例：  
{#TITLE=曲タイトル}  
{#COMPOSER=作曲者名}  
{#LYRICS=作詞者名}  
{#ARTIST=アーティスト名}



## 専門委員会・委員長インタビューシリーズ 『業務委員会』

Q1：本日は、MIDI WORLDの話題をメインにおうかがいたいと思います。

業務委員会主催のイベントとして定着してきましたMIDI WORLDが、今年も開催されるそうですね？

A1：はい、前回と同じく、日本経済新聞社主催の『ばそまる』に併催するという形で、今年も「MIDI WORLD 99」が開催されます。会期は7月30日(金)から8月1日(日)までの3日間で、会場は東京ビッグサイト、主催は(社)音楽電子事業協会と日本経済新聞社との共催です。詳細は2p、3pをご参照ください。

Q2：今回から名称が変わったのですか？

A2：「MIDI WORLD」という名称が無くなった訳ではないのです。「MIDI」という言葉は一般の皆様には解かりにくいでし、それに、デジタルミュージックが「MIDI」という言葉だけで表現できないくらいに多様化してきましたでしょう。ですから、このイベントの内容をよりストレートに分かって頂く目的で、今回から「デジタルミュージックフェア」を併用することにしたのですが、結局のところ、より一般の皆さんに分かりやすいこの名称をイベントのタイトルにすることになりました。こうすることによって、より多くのお客様においでいただけるという期待を持っています。

Q3：今回の訴求ポイントは何ですか？

A3：今回から、開催テーマを広義の「デジタルミュージック」としましたので、それに見合う内容にしてゆきたいと思っています。つまり、電子楽器だけでなく、デジタル技術をベースにした様々な音楽関連のハードウェアならびにソフトウェアですね、これらが一堂に会する総合展示会にしたいのです。そのために、スペースは小さいですが、安価な小間も用意して、ソフトハウスさんの出展も多く募ろうと準備しています。また、ご来場頂くお客様の層も、プロやマニアックなユーザーさんだけに限定されることがないよう、たとえば、「おや、面白そうなイベントをやっているな」と思って、いただけるように配慮したいと思います。昨年は展示会場の中に設置し、「騒音」に対するご批判もあったイベントステージですが、今回は展示場外の一階の共通エリアに設置して、騒音対策だけでなく一般のお客様へのアピールも図ろうと企画中です。

また、前回に引き続いてインターネット上における「Virtual MIDI WORLD」も開催しますので、様々な事情で出展できない会社や、会場においていただけない皆さんにも、オンラインで参加

いただけることになっています。前回はトータルで110万ページビューのヒットが確認されていますが、今回はそれを上回るヒット数を期待しています。

Q4：動員目標は？

A4：100,000人を目指しています。イベントの名称がリニューアルされましたし、また、パスマルの動員数も昨年より増加することが予想されていることでもありますので、昨年の倍(200%)のお客の入場が期待されます。同時に前回参加者が予想より少なかった各種セミナーに関しても、セミナールーム場所を解り易く表示し、事前告知も充分にし、動員に力をいれていきます。

佐藤知雄委員長



Q5：最後に、業務委員長としての今後の抱負を簡単にお話し頂けますか？

A5：当面は「デジタルミュージックフェア」を成功させるために全力投球します。

会員・各社の積極的ご出展参加を、是非お願い致します。昨年にも増して賑やかな実り多いフェアに致し度いと思って居ります。

更にそれに加えて、今年は「著作権法制定100周年記念」にあたるため、AMEIとしても協賛事業を実施すべく、すでにAMEIの中に実行委員会(委員長；佐々木隆一氏)が発足していますので、業務委員会としてもこれに協力してゆきたいと思います。

ところで、「業務委員会」という名称ですが、仕事の内容から言って、出来れば今後は実体に即して「事業委員会」というような名称に改めたいと思っています。

(3月16日の理事会に提案予定)

・・・どうもありがとうございました・・・

## 専門委員会・委員長インタビューシリーズ 『MIDI規格委員会』

Q 1 : GM2や歌詞付きSMFがMMAと協議の末、今回合意したとお聞きしましたが、その内容及び経緯についてお聞かせ下さい。

A 1 : GM2については、グローバルな標準音源規格として皆様に使用して頂くことを目的として魅力ある音源及び互換性を考慮し規格作りを進めてまいりました。いろいろの意見・提案がAMEI内またMMAでも出され、これらを擦り合わせまとめるのに時間がかかりました。

特徴の主なものとしては、発音数・音色・ドラムセットの拡張を中心にエフェクトのコントロールの充実、従来音源固有のエクスクルーシブ・メッセージであったものが、RPNあるいはユニバーサル・エクスクルーシブ・メッセージで一般化する等が上げられます。

歌詞付きSMFについては、従来のSMFの応用として、カラオケや楽譜上での歌詞表示のために従来あいまいだった規定を、厳密なものにしたことで、特に英語以外の言語への対応やルビの記述を可能にしたり、タイトルや作者など付随情報を表示できるようにしました。

皆様の協力によりAMEI、MMAで作成されたこれらの規格は、使用されて初めて生かされるものですので、広く皆さん、業界、は勿論のこと、特にAMEI、MMAの会員の方々には、率先してこれらの規格を使用して頂き、広めて頂きたいと思っております。

Q 2 : MMAでの総会において、GM2、SMF Lyrics、SMFの3種類のロゴも合意されたのですか。

A 2 : はい、これらのロゴについては、AMEI会員各社から公募しMIDI規格委員会で選考したAMEIのロゴとMMAから提案されたロゴとを検討し、いずれもAMEI提案のロゴを採用することになりました。特にSMF関連ロゴはシンプルさが評価されたと思います。

Q 3 : 従来すでに商標を取得されているGMロゴなども含め今後これらのロゴをどのように活用していくされますか。

A 3 : 今回合意されたSMF、SMF Lyrics、GM2の新ロゴについては、事務局より商標等登録の申請を進めていただいています。従来のGMロゴなど含め、それぞれの対応商品であることの共通表示として使用されるわけですが、AMEI全会員が平等に、あるルールの基に自由に、安心感を持って活用、使用していくためのガイドラインが必要であると思います。

Q 4 : MIDI規格委員会ではMPWGで各種プレゼンテーションやデモなど開かれていますが、どのような活動内容でしょうか。

A 4 : MIDI規格委員会応用研究部会のなかのMPWG (Music Protocol Working Group)では次世代MIDIのテーマでIEEE1394およびUSBについて検討を行っています。その活動の一環として、AMEI主催のMIDI World '98などでデモンストレーションを行い、業界をあげてIEEE1394/USBに取り組んでいくことをアピールし、廉価な楽器業界向けデバイスの供給など、部品メーカーなどへ働きかけてきました。また昨年に引き続き今年もMMA総会時にプレゼンテーションを開催し、USBおよびIEEE1394を応用したworking prototypeのデモを実施し、MMAに対しても、MPWGの活動についてアピールし、MMA内の関連グループへの協調を呼びかけてきました。

今後は、一層積極的にMMAと協力しIEEE1394/USBへ取組み、規格作りも進めていき

たいと思っております。このため、今年のMMAとのMeetingにおいて、AMEIのMPWGとMMAのTLWGは今後情報の交換を密にし、メールでのやり取り以外にFace to Faceで行うMeetingも年間3-4回実施することに合意いたしました。

また、IEEE1394につい

ては、1394TA (1394 Trade Association)に対し情報収集、提案書作成、提出など具体的な活動を行っていくために、AMEIは1394TA (1394 Trade Association)など、次世代規格の主幹団体にリエゾンとして参加していく予定です。

Q 5 : MPEG4に関してその後の動きはいかがでしょうか。

A 5 : AMEIのMPWGは、MPEG4の中でStructured Audio(SA)規格（音源規格を含む）が盛り込まれるなかで、MIDI関係の専門知識を持った協会として、規格作りやMIDIに関する情報を提供するためにAMEIはMMAと共にリエゾンとして参

加いたしました。すでにWave Table Synth仕様として、問題を抱えたE-mu社のSound Font 2 (SF2)の規格化が先行する中、AMEI、MMAはDLS 2 の提案アクションをおこし昨年7月に開催されたMPEG4ダブリン会合に、AMEI / MMAからも参加、この時点でDLS2の採用が確実になりました。

その後、MMA、AMEIが提案したDLS2がMPEG4のStructured Audio(SA)規格に盛り込まれることになり利用し易いものとなりました。MPEG4は、近々正式に規格化される予定です。

Q 6 : 次年度の計画は？

A 6 : GM2、SMF with Lyrics を知って頂き、利用して頂く為に普及・啓蒙活動等（規格書の作成、ガイドラインの作成、講習会、説明会、AMEIホームページ上に搭載）を積極的に進めてまいります。

また、MPWGは、AMEIホームページ上で、活動内容を紹介し、1394TAなどの規格主幹団体からもLinkを張ってもらい、world wideに活動をアピールしていきます。

応用研究部会参加メーカーに、デモ、接続実験、実装実験の継続的な実施をより一層強く働き掛け、実験やデモに参加するメーカーの輪を広げていくなど実用化に向けて積極的に取組んでまいります。

技術革新が進み、MIDIの利用が拡大し活性化する中、MIDI 1.0を見直し、MMAと連携を図りながら3年後程度を目安としてMIDI 2.0の規格化へ向けての調査、検討を開始いたします。

どうも有り難うございました…



亀山征二委員長

# 会員名簿

(五十音順)

**あ**

株式会社アイ・オー・データ機器  
 有限会社アイシックス  
 株式会社アイデックス  
 アイワ株式会社  
 赤井電機株式会社  
 アカソフト  
 株式会社アスキー  
 アップルコンピュータ株式会社

**い**

株式会社石橋楽器店  
 株式会社インターネット

**え**

株式会社エクシング  
 エディロール株式会社  
 株式会社エム研

**お**

株式会社大阪有線放送社  
 有限会社オブ・インターラクティブ  
 株式会社音響総合研究所

**か**

株式会社楽販大阪  
 カシオ計算機株式会社  
 カスタムテクノロジー株式会社  
 株式会社カメオインタラクティブ  
 カモンミュージック株式会社  
 株式会社河合楽器製作所

**き**

ギガネットワークス株式会社  
 有限会社キュービックエナジー  
 株式会社キューブ

**く**

クラリオンソフト株式会社

**こ**

株式会社コナミコンピュータエンタテインメント東京  
 株式会社コルグ  
 コロムビア音響工業株式会社

**さ**

株式会社サンワード

**し**

株式会社シーティーエー  
 株式会社シーミュージック  
 島村楽器株式会社  
 シャープ株式会社  
 学校法人尚美学園

**す**

株式会社ズーム  
 株式会社鈴木楽器製作所

**せ**

セイコーインスツルメンツ株式会社  
 株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス

**そ**

ソニー株式会社

**た**

株式会社タイカン  
 株式会社第一興商  
 株式会社タイトー  
 大日本印刷株式会社  
 株式会社タムラ製作所

**て**

ティック株式会社  
 TDK株式会社  
 株式会社電波新聞社

**と**

東映ビデオ株式会社  
 東京サウンド株式会社  
 凸版印刷株式会社  
 株式会社友ミュージック

**に**

株式会社日光堂  
 ニフティ株式会社  
 日本アイビーエム株式会社  
 日本コロムビア株式会社  
 日本シンセサイザープログラマー協会  
 日本電気株式会社  
 日本ビクター株式会社

**ハ**

パイオニア株式会社

**ひ**

株式会社P.F.U  
 ビクターテクニクスミュージック株式会社  
 ビクターレジャーシステム株式会社

**ふ**

株式会社フェイス  
 フォステクス株式会社  
 不二音響株式会社  
 富士通株式会社  
 株式会社ライトインターナショナル  
 株式会社プリマ楽器

**べ**

ベスタクス株式会社

**ほ**

株式会社朋栄

**ま**

マスターネット株式会社  
 松下通信工業株式会社  
 松下電工株式会社  
 松下電器産業株式会社

**み**

有限会社ミュージカルプラン  
 株式会社ミュージックネットワーク  
 株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー

**も**

株式会社モリダイラ楽器

**や**

株式会社山野楽器  
 ヤマハ株式会社  
 財団法人ヤマハ音楽振興会  
 ヤマハミュージックトレーディング株式会社  
 株式会社ヤマハミュージックメディア

**ら**

株式会社ラグナヒルズ  
 ラムズ株式会社

**り**

株式会社リットーミュージック  
 株式会社リムショット

**る**

ローランド株式会社

**わ**

株式会社ワキタ

〈以上、会員会社90社〉

〈賛助会員〉

株式会社大阪村上楽器

日本経済新聞社

株式会社ミュージックトレード社

有限会社ミュレイディア

株式会社ラプラス

AMEI NEWS Vol.9 / 1999.3.20

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F

TEL. 03-5226-8550 FAX. 03-5226-8549

発行人：中田 健

編集人：福田 誠（広報委員会）

編集協力：株式会社 ラプラス

ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>